

## 再刊のあいさつ

昨年は7月号を出して以来、半年にわたってお休みしていましたが、ようやく去年の暮れに病院から解放されて家に帰り、体力も徐々に回復してきたので新聞を再刊します。これまで基本的に休まず出し続けてきたので、突然の休刊に驚かれたりご心配ご迷惑をおかけしたと思います。どうも申し訳ありません&たくさんの御見舞いをありがとうございました。これからもよろしく願います！（あぱっち）

1年以上前から下痢と下血が続いていたのでしばらくは昔習った代替医学で手当をしていた。しかし下血はだいぶおさまっていたものの下痢は変わらなかったで、家族や友人達から病院に行って検査だけでも受けようと言われて続けた。それで去年の7月号を出してほっとしたところで近所の病院に行って検査を受けたのだが、内視鏡検査を受けるための下剤をもらってきて前日に飲んだところ腸閉塞になってしまった。その時はおなかにソフトボールくらいの大きさのふくらみができてめっちゃ痛くなり、冷や汗がたらたら、病院にかけつけるところか横になって寝ているのも無理！というほどだった。しばらくして痛みが治まってから病院に行くと、これは腸閉塞で、命に関わるような危ないところだったとおどかさされ、即手術、そして入院となった。

その後の検査の結果、これは腫瘍（それもガン）が原因の腸閉塞だったのがわかったので、大阪の方にある病院に移ることにした。その治療のやりかたというのは最初4週間は放射線と抗がん剤治療をし、それから一時退院して1ヶ月半ほど自宅で療養というか待機し、それからまた入院して手術するというもの。手術や抗がん剤治療というのは以前からかなり抵抗があり、そのため自分で手当法などを試していたのだが、それで治るどころか腸閉塞になったので、自分のような例では外科的な処置もやむをえないかなと判断した。でも病院での治療を主としたもののピワ葉、温熱、漢方など様々な療法を友人知人が提供してくれたので、自宅にいる時も入院中も使っていた。またたくさんの人が気にかけて無事を祈ってくれたのが、何より効いたと思うしありがたかった。

手術や長期の入院というのは生まれて初めてのことだったが、たぶん医療も進歩しているのだろう。ガンになっても今は社会復帰する人も多いそうだ。ただ医者が手術をしたがり、患者の意向をあまり尊重しないように感じたし、患者を脅かしたりあせ



らせて自分の思ってる方向に持って行こうとするのはまだ変わらないようだ。

11月に手術のため入院した時は、手術自体は成功したものの、手術で傷ついたリンパからの漏れが止まらないという合併症が出て絶食状態が1ヶ月ほど続いた。告白すると、これまでの人生で断食というのは一度もやったことがなかったのだが、こんなことで1ヶ月も断食するとは思ってもしなかった。おかげで1年前までは60kg前後あった体重が43kgまで減り、それまで気になっていた太り過ぎが一気に解消したのはいいが、減りすぎてふらふらするようになってしまった。

誰でもそんなものかもしれないが、もともと自分がまさかガンになるとは思ってもいなかった。というのもガンというのは根を詰めたりがんばる気質の人がなりやすいと聞いていたのだが、自分の性格を自己分析をしてみてもまったくアバウトだし、今日やることがあっても明日にまわせるようなことはなるべく後回しにするというのがモットーなくらいいい加減な生き方をしてきたと思っていたから。1つ思い当たるとすれば、311以来、いろんな脱原発情報をサイトで紹介することはずっと続けて来て、時には義務感で自分はやってるのかと自問するようなこともあるにはあった。そのため、それは7月の入院以来やめることにした。どうしても僕でなければできないようなことではないと思ったからだ。

またある人に言わせると、物理的にいつもパソコンの前に座ったきり根が生えて動

かないような生活がよくないのではと。あるいは夜更かし・朝寝もよくないと。ガンの始まりは10年くらい前にさかのぼるとも言うが、こういった運動不足で夜型の生活は八丈島時代から続いていたような気がする。今は以前より多少は早寝早起きを心がけ、体力の回復とともに多少は体を動かすようにしているつもりだが、心を入れ替えてすっかり暮らしぶりを変えましたと言いきれない状態だ。

ガンで入院、手術というと、人の一生の中で大きな出来事のはずだ。でも僕としてはあまりそれがピンとこなくて、これはおっぴらに休めるいいチャンスだというくらいにしか思わなかった。ガンだというと黄門様の印籠のようなもので、誰しもゆっくり休んで下さいと言ってくれる。こんな機会はそれこそ一生のうちそんなにあるものではない。人生で起こることは何でも意味があるはずだが、特にこういった大きな病というのはメッセージなんだろう。

人生ももう後半。若い頃は自分は永遠に生きるくらいにのんきに思っていたが、今ではあと10年か20年か30年かはわからないが、いずれ今まで生きてきたよりは短い年月のうちにこの世を去るということが薄々わかってきた。そうになると、これから何をしてどう生きていくかを考えざるを得ない。悔いのないように生きるというのはよく言う言葉だが、悔いというのはやっぱり残るだろう。そんなものだと思うが、それでも死ぬまでは生きて、その時が来れば死を受け入れるしかない。

それはそうとして、立ち止まって今までの人生を振り返ってみると、無駄なエネルギーを使うことも多々あったのがわかる。それはなるべくやめにして、ほんとうにやりたい、やるべきだと思えることに絞ってやるようにして、効率的に残りの時間を使いたいと思う。入院中にはそのことを（時々）考えていたが、今後もやりたいことの一つにこの名前のない新聞があるというのを改めて確認したじだ。

←手術直後は起き上がることもできなかったが…